

NPO法人

志免地域支え合い互助基金

2024年度 会報誌

2025.7.1 発行

Vol. 7

2024年度 会報誌

理事長ごあいさつ 2
理事・推薦人紹介

活動のご紹介 3

2024年度 4
活動報告

2025年度 15
運営について

2025年度 スローガン

『競争から協働へ。

協働の文化を創造しよう！』

～ 一丸となって志免町づくりに貢献しよう！ ～

世代を超えて.. 町内会を超えて.. 職域を超えて..

未来の志免町社会をつくる為に、協働しよう！



このマークは、「志免地域支え合い互助基金のシンボルマークです」
原案を考えて下さったのは、2020年9月当時、志免中学校3年生だった宮島 煌(ミヤジマ キラ)さんです。

理事長 ごあいさつ



NPO法人 志免地域支え合い互助基金
理事長 青戸 雄司
(社会医療法人栄光会 副理事長
社会福祉法人栄光会 理事長)

「ほっとけない」想いで活動する互助団体を支援する仕組みづくりを目指す法人として、2018年6月に「NPO法人志免地域支え合い互助基金」が設立され、はや8年目となります。

2024年度が終わり、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年がいよいよやってきました。

4月7日付の日本経済新聞によると、2025年の75歳以上の高齢者人口は推計2155万人です。わずか5年で295万人増えた事になります。さらに、少子化による急速な人口減少と高齢者人口がピークに達すると言われている2040年問題があります。2040年は、1971年～1974年の第二次ベビーブームに生まれた団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者になる年であります。このように我が

国はますます急激な少子・超高齢化・多死・人口減少社会へ進みます。それに伴い、深刻な社会問題として、経済的な理由で介護保険サービスさえ受けられない「介護難民」、年金が唯一の収入源であり他に支えがない「年金生活困窮者」、地域とは孤立している「独居世帯」、「孤独死」など多くの課題が山積みしています。

2024年度のスローガンは『対話』（話すことで理解が進み、違いを受け入れることでエネルギーとなる）でした。2025年度は「競争から協働へ。協働の文化を創造しよう！」（一丸となって志免町づくりに貢献しよう！）とたく考えています。志免町で生活する全ての人々が、互いに支え合い、心豊かに生活できる環境を整えることが私たちの使命です。どうか、今年度も一緒に力を合わせて、志免町をより良くする為の活動に取り組んでまいりましょう。

NPO法人志免地域支え合い互助基金の目指す支援活動を、一層充実したもものとして発展継続させていく所存です。

どうか、今後ともご支援ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

理事紹介



副理事長 宮本 陽子
(福岡県民生委員・児童委員協議会 理事)

超高齢社会問題と言われてきた2025年をむかえました。民生委員の立場からも支援を必要とする方が増えてきたと実感しています。この状況は、2040年問題の頃まで続きます。その一方、“ならば私達が”と支援してくれる人達もまた増えています。心強い限りです。

当法人としては、微力ながらそんな方々の後押しができればと思っています。



理事 渡邊 明
(別府1町内会 福祉部長)

家族が行ってきた自助を地域が担う時代になってきた現在、地域で行う生活支援という仕事を行って下さる存在が必要となりました。この仕組みをどう創れば良いか？志免町で暮らす皆さんや仕事に関わる皆さんとの対話を重ねより良い仕組みを創造する2025年度にしていきたいと考えています。宜しくお願い致します。



監事 山田 忠政 (志免町町内会長連合会 会長)

当法人では、高齢化及び地域コミュニティの欠如という社会現象の中で、会員体制及び活動内容等の見直しを実施し、高齢者の生活支援活動等を行っております。

今後、互助基金をより充実し発展させるには、新たな視点や発想で変化に機敏に対応できる組織づくりが大きな課題であります。この課題に挑戦する為には、互助基金のみの活動では不可能で、志免町はじめ各種団体並びに多くの皆様のご理解とご支援が不可欠でございます。

どうか互助基金活動の趣旨をご理解ください。ご支援・ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

推薦人紹介

～ 私たちの活動趣旨に賛同し
応援して下さる方々です～

(R7.6.17インターネット&新聞での調査)

久保 千春さま
田川 大介さま
谷川 浩道さま
松尾 喬之さま
山田喜一郎さま

中村学園大学 中村学園大学短期大学部 学長
株式会社西日本新聞社 代表取締役社長
株式会社西日本シティ銀行 代表取締役会長
粕屋医師会 会長
志免町シニアクラブ連合会 前会長

(芳名五十音順)

設立趣意

住民の方と専門職が協働し、地域で支え合う互助の文化をつくろう!

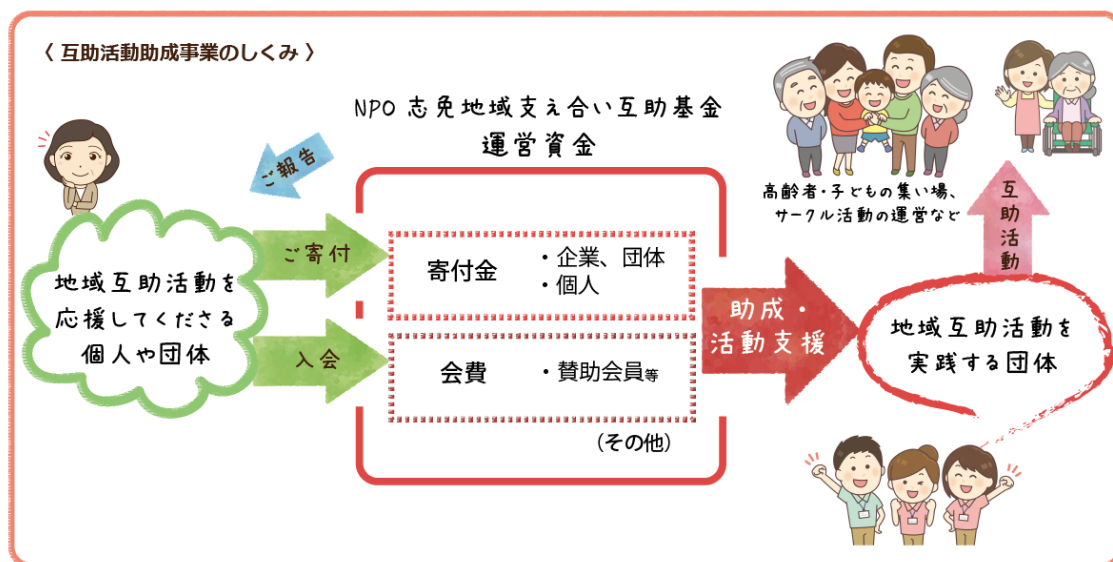
事業目的

この時代、これからの時代に、高齢者の方々や生活困窮の方々の生活を支え、安心してこの町で暮らすことができる様にするには、自助・共助・公助だけでは難しい。やはり、ここに住民同士や住民と専門職等が協働する「互助」の仕組みが必要不可欠です。

私達は、地域で困っている方々を『ほっとけない』想いで支える活動をしている互助団体を継続的に支援できる仕組みを確立し、住み慣れた場所で人生最期まで安心して暮らせる町づくりに貢献することを目的に活動しています。

事業概要

1. 互助活動助成事業：地域で互助活動を行おうとしている人や団体、既に活動を行っている団体に助成を行い、互助活動の誕生・推進・継続を支援します。
2. 互助活動広報啓発事業：私たちの活動や助成をさせて頂いた団体を広く知って頂きご支援を頂くため機関誌の発行や講座等の活動など、様々な広報活動を行います。
3. 互助活動コーディネート事業：私たちの活動が橋渡し役となり、互助活動に携わる人と人、活動と活動をつなぎ、支援の輪が広がることを目指します。



法人概要

名称 特定非営利活動法人 志免地域支え合い互助基金
 設立年月日 平成30年（2018年）6月8日
 理事長 青戸 雄司（設立時の理事長 下稲葉 康之）
 URL <https://shimekikin.org>
 住所 〒811-2205 福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1
 医療介護施設かめやま内
 TEL 092(692)1512
 メールアドレス shimekikin@gmail.com



←法人の二次元バーコード

法人のシンボルマーク→



NPO法人 志免地域支え合い互助基金活動

【沿革】

- 2013年 志免西・地域協働ネットワーク 誕生
別府1・2・3町内会、志免西小学校、社会医療法人栄光会等、医療・介護・福祉の専門職が『地域協働体制』を創る為に結集した。
- 2014年 定期的に交流会を開催。互いが何を行っているかが見えるようにする。ここで、民生委員が家族機能の一部を担っている事を知る。
- 2018年 NPO法人志免地域支え合い互助基金 設立。
- 2019年 認知症の方をイメージしたやさしい声かけ訓練を実施。
- 2020年 志免中学校、志免東中学校の学生さんに「支え合いシンボルマーク」を公募。800通応募の中から選定。支え合いシンボルマークで缶バッジとシールを制作。
- 2021年 住民と専門職の協働モデル事業『生きる力支援推進会議』を実施。
- 2022年 さわやか福祉財団主催『いきがい・助け合いサミットin東京』に登壇し、当法人の説明を行う。
- 2023年 鹿児島から高校3年生の時に町内会長となった唐湊山の手町内会長の金子陽飛さんをお招きし大交流会を開催。
- 2024年 5団体・805,500円の助成をさせて頂くほか、「退院支援から生活支援」を考えると題したシンポジウムを開催。『志免町民の生活支援を考える会』が発足する。

【助成一覧】

- 2018年 別府1町内会 パワーアップスクール(多機能型学童保育事業)
「地域支え合い互助活動 実践事例に学ぶ」～大牟田白川地区の取り組みから～
- 2019年 福岡志免ボーイズ(中学生の第3の居場所事業)
しめキッズクラブ(幼児の第3の居場所事業)
別府3町内会 やさしい声かけ訓練(認知症の方を対象とした住民・専門職協働の声かけ訓練)
みんなの居場所「いこうや」実行委員会(コロナによる緊急学童保育カレー配食事業)
- 2020年 チーム田中屋 物資及び炊き出し支援(コロナ渦での被災地支援活動)
王子ふくしのまちプロジェクト(要援護者の方へ生活支援を行うサポート隊の結成)
- 2021年 チーム田中屋 物資及び炊き出し支援(コロナ渦での被災地支援活動)
べふ3福祉のまちづくりプロジェクト(住民と専門職の協働による生きる力支援推進会議)
- 2022年 防災Eatプロジェクト(生きるための防災食講座:防災及び防災食への意識向上を目指した講座)
- 2023年 志免清龍隊(よさこいを通じた多世代第3の居場所事業・多世代協働事業)
- 2024年 おかわり食堂～うま1本～(食を通じた多世代型の地域活性プロジェクト)
防災Eatプロジェクト 第2弾(防災食を教える人材の育成)
みんなの健康プロジェクト志免(健康をテーマにした志免町住民と専門職による対話の場)
みんなの居場所「いこうや」実行委員会(中学生への朝ごはんサポート事業)
NPO法人咲良(志免町民のタレント発掘やサポートを行う事業)

【連携協定先団体】

- 2022年～NPO法人いるか(多機能型こども食堂、地域食堂の拠点及びサポーターづくり)

【支援団体】

- 2025年 志免町民の生活支援を考える会
まちの保健室・事業者ネットワーク志免 実行委員会

1) 互助活動助成事業

おかわり食堂
うま一本

タレントであるとんこっちゃん・ふじ子さんが代表のおかわり食堂。子供の食事を支え、働く親が一息つける親子の居場所づくりを目的としています。

まずは毎月第1木曜日の17時開催でスタートをきりました。あつという間に毎月100食前後の食事をつくるようになり、食堂内で参加者と共に食事をする方や、お弁当を持ち帰る方に対応しています。

ゆくゆくは、子供から高齢者の方が集える場になるよう、成長・進化をしていきます。

《団体人数》 7名

《助成金額》

300,000円



《助成理由》

1. 代表の考え方と行動力が未来づくりへの希望であると判断したため。
2. 代表を支える志免町民や企業の方が多く。
3. 代表が社会福祉士の資格を取得するため通信教育を受けている。
4. NPO法人いるかと基金が目的とする志免町の子育て支援に合致する。

みんなの健康プロジェクト志免

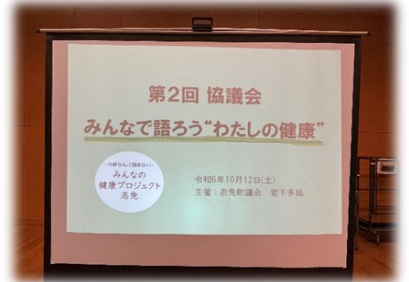
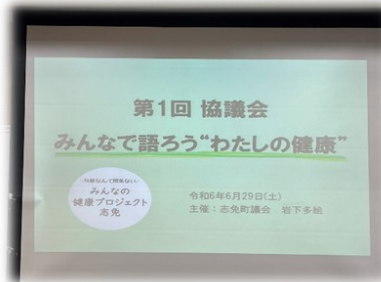
志免町の町民である岩下さんが代表のみんなの健康プロジェクト志免。健康をテーマに、住民・産・官・学 が対話を行う場の提供を行った。

《団体人数》 5名

《助成金額》

100,000円

(なお助成金が充足をしていた場合、当法人に残金を速やかに寄付して頂く。)



《助成理由》

1. 代表の考え方と行動力が未来づくりへの希望であると判断したため。
2. 代表を支える志免町民や企業の方が多く。
3. 対話を行う事で、町づくりに積極的に関わろうとする主体者を生み出すことに繋がる。
4. テーマを掲げて対話するというテーマ型対話を継続して行うことで、主体者を輩出する事ができる可能性がある。



1) 互助活動助成事業

防災Eatプロジェクト

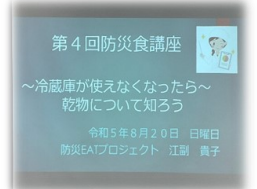
2022年度に助成をさせて頂き、コロナ渦という事もあり2年をかけて当初の計画を実行する事ができました。2023年の3月に行った『炊き出し訓練』が大反響となり、防災食の意識が高まったと言えます。

これを受けて、2024年度からは人材育成に力を入れ、防災食を教える事ができる人の数を増やし、より防災意識を高める事に寄与したいと意識高く活動をされています。

《団体人数》 4名

《助成金額》

155,500円



《助成理由》

コーディネート事業により伴走支援をさせて頂き、人材育成の必要性を理解していた。

みんなの居場所「いこっや」実行委員会

コロナ前より計画されていた志免町の中학생に対する朝食サポート活動。朝食を友人や先生方と一緒に食べ、一日を元気で学業に励むことができるエネルギーを養って頂きたいと想っての活動です。

《団体人数》 約25名

《助成金額》

150,000円

《助成理由》

朝ごはんサポートについては、食を通じた朝の楽しいコミュニティの場づくりであり、人の意識に前向きな変化をもたらす可能性がある為、意義ある活動になると判断した。



NPO法人咲良

志免清龍隊の代表である南里泰子さんが代表である法人。活動の継承を円滑に行う事や志免町で暮らす方々が持つ技能や経験を、志免住民の方に活かすことを事業として行う仕組みづくりを行う法人。

《団体人数》 15名(個人・法人)

《助成金額》

100,000円

《助成理由》

これからの時代に必要な仕組みであり、志免町の中で仕事を創造することになる。志免町の昼間人口を増やし、見守り体制や集い場創造に寄与していくと判断したため。

1

交流対話会 「退院支援から生活支援を考える」モデル事業 及び シンポジウム開催！

1人暮らしの高齢者、身寄りのいない高齢者が増加する中、民生委員やケアマネジャーは本来家族が行う生活支援の一部を行わざるをえない「シャドーワーク」が問題になってきている。

また、病院で入退院の調整を行うメディカルソーシャルワーカーも、1人暮らしや身寄りや生活支援をしてくれる人がいない高齢者を、このまま退院させて良いのだろうか悩んでいる。

これら問題を把握する為に関係各位と協働をしながらモデル事業を行った。

そして、この問題について関係各位が集い、対話を行う場を設け意見交換を行った。

モデル事業では、対象者が病院から自宅に退院する際に行う退院前カンファレンスのあり方を考えさせられた。対象者が自宅に帰る上で、生活支援を行ってくれるであろうコンパッション・コミュニティの把握とその存在に同席して頂きながら対象者の自宅で退院前カンファレンスの必要性だ。

では身寄りがなくコンパッションコミュニティもない人の場合はどうするか？ここが今後の大きな課題であり、現状、このサポートを民生委員の方が中心となり行っているが、ここを今後は誰がどの様に行うことがより良いのか？について、今後ますます真剣な対話が必要になる。

シンポジウムを開催する前に行った民生委員及びメディカルソーシャルワーカーへのアンケートからそれに対する課題意識とその解決に向けた提案が多数寄せられた。

今回、このモデル事業 及び シンポジウムを経て、「より添いサポート」というチームが結成され「お元氣訪問」というモデル的取組が始まった。一方、「志免町民の生活支援を考える会」という協議体が誕生し、この課題に向き合う為にどうすれば課題の共有と主体者を生み出すことができるか？について仮説を立て行動を始めた。

2025年度は、これら活動を継続して行い、その中から得た知見を活動報告会を通じて発表し、会員、寄附者の皆さまと共有し、意見交換を行いながらより活動のエネルギーをアップさせていく予定です。

特集 今からはじめるフレイル予防

シニアクラブ

もっとつながりたい人はシニアクラブに加入しよう！
あなたの生きがいになります。



- 毎週、みんなで一緒に食べます
- 力強い音楽
- 町内各福祉団による手押しげんこでい
- 「食べて、つながる」に集まった皆さん(記念撮影)

【初めての対話会】
「初めの対話会」は、Mさんへの生活支援が主目的のアンケートの結果、Mさんが「もっとつながりたい」という声が多く聞かれました。そこで、Mさんが「シニアクラブ」に加入し、仲間とつながりたいという声に応えるため、シニアクラブの活動写真が掲載されています。

【新たな歩】
「新たな歩」は、Mさんが「シニアクラブ」に加入し、仲間とつながりたいという声に応えるため、シニアクラブの活動写真が掲載されています。

心配ごと相談実施中

民生委員・児童委員が難問に対応します。
ご希望は21ページ(後編相談窓口)をご覧ください。

詳しい活動内容を令和6年5月号で載せています。ぜひご覧ください。

民生委員 関子 さん

志免町 民生委員・児童委員

「最初は、知らない人ばかりで、話しかけられなかった。でも、話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。」

「最初は、知らない人ばかりで、話しかけられなかった。でも、話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。」

「最初は、知らない人ばかりで、話しかけられなかった。でも、話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。話を聞いてみると、みんな同じ悩みを持っている。」



2

会員の皆さま・ご寄付を頂いた皆さま等へ、 アンケート活動の実施。

2024年9月、下期の資金確保に向けて、会員の皆さま・寄付をして頂いている皆さまにアドバイスのお願いをさせて頂きました。

いつも同じメンバーで思考と行動をするなか、現状評価をする視点やそれを打開する発想に変化がなく現状突破が見いだせないため、皆さまにアドバイスを求めさせて頂きました。

これまで行ってきた互助活動広報啓発事業の取り組み、及び互助活動助成事業やコーディネート事業が地域社会に必要とされているのか？、私たちの努力が不足しているのか？ はたまたその方法や手段が違うのか？ 等々、何が地域社会とかみ合っていないのか？ の把握が出来ていない状況でした。

その結果、3人の方から具体的な意見及びアドバイスを頂きます。くしくも2名の方から頂いた意見は「基金が行う活動の軸が見えにくい・行っている事業の情報を、クラウドファンディングの様に発信した方がわかりやすい」という内容でした。また、月会費制や支援したい事業の支援が出来る仕組み等、わかりやすくアドバイスを頂きました。

頂いたご意見やアドバイスを活かし、行っている各事業の棚卸を行いながら、役員・事務局各位、そしてITアドバイザーの吉村さんも含め、各会議で議論を重ねながら2025年から行う広報啓発事業は何か？ を共有してきました。

アンケートにご協力を頂いた皆さま方に、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。

3

オンライン上からの寄付への取り組み

ご寄付を頂ける裾野を拡げる為に、2024年度もデジタル広報に取り組みました。

●コングラント社との協働

2024年度も、コングラント様と協働をさせて頂き、オンライン上から寄付をして頂ける環境を持ちました。その結果、4件・28,000円のご寄付を頂いています。ご寄付を頂いた2法人・2個人の方に、この場をお借りし謹んで御礼を申し上げます。応援メッセージに書いて頂いた内容を胸に抱き、志免町地域の方々のために尽力して参ります

●地域課題解決に向けた魅力ある事業活動

NPO法人志免地域支え合い互助基金は、地域で困窮する方々と「ほっておけない」想いで活動している互助団体を支援する仕組みを確立し、住み慣れた場所で最後まで安心して過ごせる町づくりに貢献することを目的に事業活動を行っています。

この目的を実現させていく為には、社会の現状をお伝えする広報や、その意識の啓発を行い、共に活動して下さる仲間が必要になります。

これらの情報を随時志免町の方々にお伝えするには紙媒体では難しい。テレビやラジオ、そしてSNS等のデジタルを活用した方法を主として行わないと出来ません。しかし、テレビ・ラジオは多くの資金が必要で、私達にはその力がありません。よって今できる事は、SNS等をフル活用した広報を行うことだと考えています。

広報委員会でを行うデジタル広報のミーティングでは、吉村和也ITアドバイザーを中心として協議を重ね、当法人の事業活動内容や情報発信方法を決めてきました。約6ヶ月の協議期間を終え、いよいよ実施段階、そしてその効果をはかる時へと移ります。



志免地域支え合い互助基金

応援したい方へのページアドレス

https://congrant.com/project/shime_kikin/7935



4

志免中学校有志と活動する『支え合い新聞部』

ほほえみ結ぶ・しめ新聞 第4号・第5号 発行！

支え合い新聞部は、2021年度に結成された地域新聞部です。

2024年度のメンバーは、志免中学校の先生方、中学3年生が4名、2年生が6名、1年生が11名、そして大人部員が3名です。活動は、主に志免中学校2階の図書室で行っています。

2024年度は3回新聞を発行する予定でスタートしました。しかし、より良い新聞にしたい思いから編集に時間がかかり、2回の発行となりました。

第4号は、「食」を通じた町づくりについて取材を取行。「防災食」から被災するとは..被災した時は..などのことについて、取材や学びの時間を取り入れながら新聞を制作していききました。また「おかわり食堂」を開設した代表のどんこっちゃん・ふじ子さんのご協力を得て、食堂にお見えの親子さんと一緒に食事をさせて頂き、その思いを取材をさせて頂きました。

第5号は、戦後80周年特集！として、志免町にお住いの人間魚雷回天の乗組員だった東努さんに取材をさせて頂き、『いのち』について新聞制作を行いました。この号では、『いのち』を与えて頂いている人間として、戦前に教育を受け戦時下を生きた20歳前後の人間と、現代を生きる人間の違いが良くわかりました。一方で、この80年という長い月日を経ても日本人として変わらぬ遺伝子が脈々と受け継がれていることもわかりました。

いづれも500部発行した他、オンラインでも読めるよう、弊法人のホームページから観れるようにしています。

2025年度は、「支え合い新聞社」となりました。年間3回の発行を目指します！

支え合い新聞社を、どうぞご支援ください。宜しくお願い申し上げます。

ほほえみ結ぶ・しめ新聞 第4号

ほほえみ結ぶ・しめ新聞 第5号

ほほえみ結ぶしめ新聞!

～NPO法人 志免地域支え合い互助基金 第4号～



ホームページ 二次元バーコード



志免地域支え合い互助基金

目次

- ・おかわり食堂～うま一本～
2～3ページ
- ・防災食 4～5ページ
- ・豆知識 6ページ
- ・まとめ 7ページ

この新聞は？

NPO法人志免地域支え合い互助基金と志免中学校の有志が発行する新聞です。志免町のなかに多くある支え合いにスポットをあてて、この町に多くの支え合いがあることを知ってもらい、心を豊かにし、安心して生活ができますように！という思いを込めて発行しています。

ほほえみ結ぶしめ新聞!

～NPO法人 志免地域支え合い互助基金 第5号～



目次

- ・戦後80年特集！！
2～3ページ
- ・人間魚雷について
4ページ
- ・東さんの紹介
5ページ
- ・インタビュー内容
6～7ページ
- ・まとめ
8ページ
- ・戦時中について
10～11ページ
- ・おわりに
12～15ページ

この新聞は？

NPO法人志免地域支え合い互助基金と志免中学校の有志が発行する新聞です。志免町のなかに多くある支え合いにスポットをあてて、この町に多くの支え合いがあることを知ってもらい、心を豊かにし、安心して生活ができますように！という思いを込めて発行しています。

5

支援貯金箱

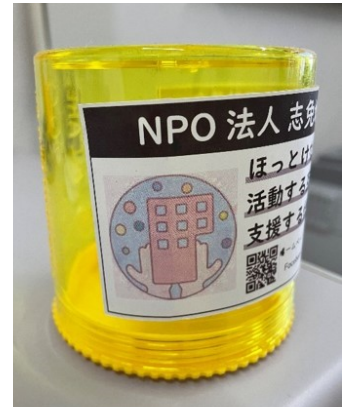
2022年度から就任して頂いた山田監事の尽力により、志免町のほとんどの町内会様が『支援貯金箱』の設置をして下さいました。ありがとうございます。



貯金箱 右面



貯金箱 正面



貯金箱 左面

◎2024年度は、47個(2024年3月31日時点)の設置をして頂いています。

【貯金箱を置いて頂いている方々をご紹介します。】

◆町内会

多くの町内会さまが公民館に設置をして頂いております。

弊法人と協働をして頂いている各町内会の皆さま方に対し、衷心より御礼を申し上げます。

◆法人等の方々

- ・富士正醤油醸造元 様 ・コココーラボトラーズ 様 ・お肉の大ちゃん 様 ・ミコー薬局 様
- ・居酒屋 肴也 様 ・相即 様 ・大賀薬局 粕屋亀山店 様 ・大賀薬局 粕屋別府店 様

◆個人の方々

・中山 裕子 様	・神永 直美 様	・薙野 幸子 様
・薙野 澄男 様	・手島 秀夫 様	・岡本 文子 様
・松崎 尼代 様	・斎藤 龍治 様	・藤 慎一郎 様
・山川 幸子 様	・矢野 玉紀 様	・牛房 京子 様
・高野 政則 様	・柴田 京子 様	・伊藤 和子 様
・神谷スミ子 様	・山本紘一郎 様	・下稲葉主一 様
・安田 豊重 様	・堤 久美子 様	・宮本 陽子 様
・渡邊 明 様	・鷹尾 剛 様	・小柳 郁子 様

【 2024年度 支援貯金箱から頂いたご寄付 】

2024年度も、多くのご寄付を頂きました。

この場をお借りいたしまして、御礼を申し上げます。ありがとうございます。

貯金箱でのご支援を、宜しくお願い致します。

6

支援自動販売機事業

2019年から始まった「支援自動販売機」事業ですが、今年度も多くの皆さま方に支えて頂きました。

この事業から、年間合計**204,864円**ものご寄付を頂きました。ありがとうございます。

【ご支援を頂いている皆さま】



(有)田中屋 代表 田中 清昭さま

富士正醤油醸造元(株)

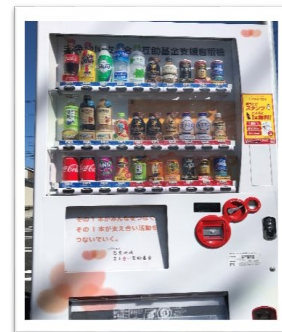
代表 藤 浩太郎さま



(株)大心 代表 牧 昇さま



(株)進明技興 代表 谷 清昭さま



(株)ゼンケン
代表 伴 善弘さま



(株)K's物流サービス
代表 久保 大輔さま



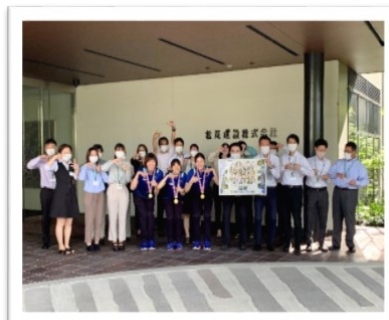
HearSalon NAKAO
代表 中尾 浩二さま



社会医療法人 栄光会
理事長 井上 裕さま



(株)飯田工務店
代表 小山田 義人さま



松尾建設(株)
代表 松尾 哲吾さま



コカ・コーラボトラーズジャパン(株)さま

1

NPO法人いるか様との連携協定により フードパントリーを開催する！

2022年9月、NPO法人いるか様と、志免町内における『子育て支援及びこども学習支援』を目的に連携協定を締結しました。そして2024年度は、

- ①『多機能型子ども食堂』を志免町の小学校区に1ヶ所つくること。
- ②ボランティアのプラットホームをつくる為の活動を開始する事を目標に関係各所とお話をさせて頂きながら活動を行いました。

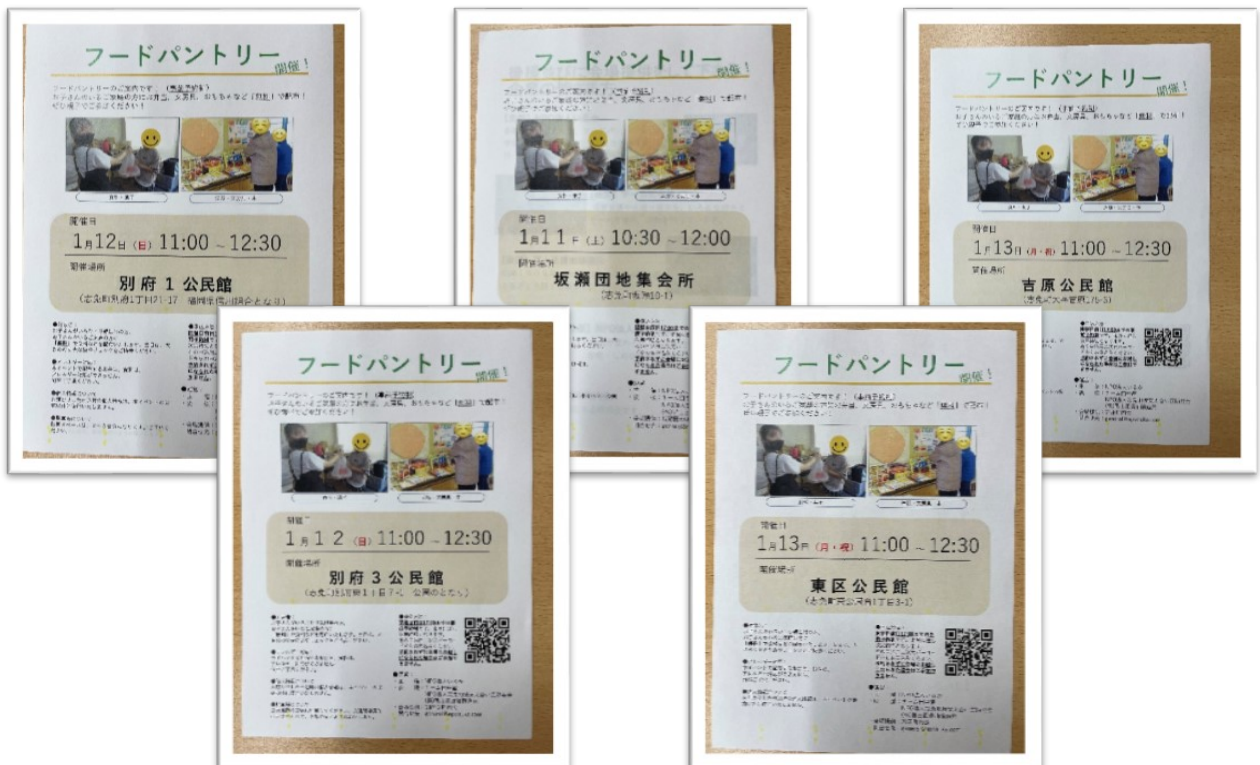
しかし、なかなか状況は進展しません。そこで今年度も、NPO法人いるかさん主催のフードパントリーを開催しました。2025年1月11日(土)は坂瀬団地集会所、1月12日(日)は別府1公民館・別府3公民館。1月13日(月)は東区公民館・吉原公民館で開催しています。

3日とも、各企業さんや個人の方々がいるかさんに提供して下さった様々な支援から『お弁当や食材』。そして会場内には『文房具やおもちゃ等』を多数取り揃え、チラシを作成して参加希望者を募りました。

チラシは、志免中央小は929枚。志免西小は1,096枚。志免東小は530枚。志免南小は学校側が印刷をして下さり全生徒さんに配布して頂きました。

その結果、坂瀬団地集会所は5世帯・28名が参加。そして20歳の大学生が運営を手伝って下さいました。別府1公民館は15世帯・54名。別府3公民館では3世帯・16名が参加され、別府3会場ではコンサートを開催し、ZOOMで別府1公民館会場と繋いで楽しいひと時を過ごしました。東区公民館では6組・22名。吉原公民館では13世帯・47名が参加し、20歳の大学生が3名もお手伝いをしてくださいました。成人式の前日・翌日にも関わらずお手伝いをして下さった20歳の学生さんに、感謝申し上げます。

今後は、この活動を『第3の居場所』として、地域の集い場になるよう発展できるようにしていきたいと考えています。



2

志免町民の生活支援を考える会・

まちの保健室・事業者ネットワーク志免 実行委員会

弊法人内で助成委員会を開催している時でした。ケアマネジャーをしている事務局員から、身寄りのいない1人暮らしの高齢者の方に対して行う「退院支援と自宅に戻ってからの生活支援」について相談がありました。同席する民生委員さんからも同様の課題指摘があり「モデル事業 退院支援から生活支援を考える」がスタートします。

栄光病院から自宅に退院する身寄りのいない1人暮らしの高齢者の方の生活支援を考えるモデル事業が2024年度のケースでした。その中からわかる多くの課題を整理するなか、民生委員の方や病院で働くメディカル・ソーシャルワーカーの方にアンケートにご協力をして頂き現状把握に努めました。

そこでわかってきた現状を、町内会の役員さんや福祉を担当する住民の方、そして専門職の方と共有をする必要があると判断し、交流対話会「退院支援から生活支援を考える」シンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、何が課題なのか？ではその課題解決に向けて何をすべきなのか？に焦点があてられ、それらを掘り下げていく【協議体】として『志免町民の生活支援を考える会』が結成されました。シンポジウムに参加をした18名の方が参加表明をされます。

2024年11月に『志免町民の生活支援を考える会』が結成され、会長には看護師の雨森優子さんが選出されます。また同じ時期、【協議から協働実行】の役割として『まちの保健室・事業者ネットワーク志免』実行委員会が発足しました。

会として目指す方向はどこか？シンポジウムで提起された「何が課題なのか？その課題解決に向けて何をすべきなのか？」を突き詰めていく中で、「コンパッションタウン・志免」を目指すことが決議されました。

人には、その人がピンチの時に助けてくれたり、寄り添ってくれる仲間というコミュニティがあります。その核が家族でした。その家族の人数が少なくなり、地縁や血縁も縁遠くなっていく中、新たな縁やその方をきかしてくれる存在が必要になります。その存在に、志免町民の1人1人がなる意識を持ちましょう！そういう町でいましょう！を呼び掛けていくという内容です。

この会では、いろんなコミュニティに呼びかけ交流会を開催させて頂く計画です。また、毎月行う定例会では【対話タイム】を設け、社会課題を共有し、次の行動に結び付けていく為にどうするか？の協議を行い始めています。多くの志免町民の方々の参加をお待ちしています。

交流・対話会
志免町の1人暮らし高齢者の退院支援から生活支援を考える
～交流・対話を通じて、みんなで支援の輪を創り出そう！～

開催概要
開催日時：2024年9月8日(日曜日)10時～12時30分
開催場所：シーメイトホール 志免町大字志免451番地1
参加費：無料(定員:200名)

当日の予定
【第1部】現場からの報告 医療の現場から 地域の現場から
【第2部】シンポジウム&意見交換(予定登壇職種)
参加希望者の声
参加お申し込みはこちら



9月8日(日) 交流・対話会のご案内

退院支援から生活支援を考える
～交流・対話を通じて、みんなで支援の輪を創り出そう～

ほっとけない想いで活動する互助団体を支援する仕組み作りを

1人暮らしの高齢者。誰が生活支援を行うのか..

解のない大きな課題・テーマ。
その大きさ故に、1人で考えるのではなく皆で考え、どうすればハッピー・ネットワークができ、ハッピーサポートが継続的に行われるのか..

将来を憂うことなく前向きに明るくこの難解に共に向き合おう！

4) 2024年度 賛助会員・寄付等の状況

2024年度に頂きました、ご寄付及び賛助会員数と金額について
ご報告をさせていただきます。

【ご寄付及び賛助会員総数並びに総額】

- ご寄付及び賛助会員総数 112件
- ご寄付及び賛助会費総額 662,428円
- ※認定NPO法人取得要件に即した場合の総数 83件

（ご寄付及び賛助会員並びに総額の内訳）

- 個人 84名
- ご寄付及び賛助会費総額 368,878円
- 法人・団体 28件
- ご寄付及び賛助会費総額 293,550円

（貯金箱プロジェクトの内訳）※なお当寄付金総額は、上記金額に含まれています。

- 2025年3月末現在 設置をして頂いている個数 47ヶ所
- 2024年度にご支援を頂きました寄付金総額 88,297円(上記含む)

（支援自動販売機の内訳）

- 2025年3月末現在 設置をして頂いている台数 9台
- 2024年度にご支援を頂きました寄付金総額 204,864円

2024年度も、多くの個人・法人・団体の皆さま方のご理解とご協力により、
多くの資金をお預かりさせて頂くことができました。

ありがとうございました。

感謝



目標にしています『認定NPO法人化』への道のりはまだ遠いですが、
できる限り多くの皆さまに支え合い活動の必要性を発信し、活動が生まれ、その活動を
支えていく財源として役立てれるように致します。

2024年度は、志免地域社会における支え合い活動が活発化してきた年度でした。
助成件数や助成金額も過去最高となりました。

一方で、個人の方々からお預かりさせて頂く会費や寄付金が減少してきています。
この大きな課題と正面から向き合い、この解決に向けた活動を行う必要があると感じています。
その方策の1つとしては、AI及びIT・SNSを活用し、多世代や町内外の方や法人へに向けた
活動情報の発信。そして、地域の方々とのコミュニにケーションだと考えています。

2025年度は、これらの動きが継続・発展できるよう、助成団体として、助成基盤を
拡充するために、人材基盤の裾野が広げ、より可視化された法人体制を目指します。

< 2025年度 運営について >

以下、2025年度の運営について、要点を抜粋して掲載をさせていただきます。

1) スタッフ構成

理事長 青戸 雄司・副理事長 宮本 陽子・理事 渡邊 明・監事 山田 忠政
事務局長 下稲葉 圭一・事務局員 鷹尾 剛・江藤 晃・中山 裕子
ITアドバイザー 吉村 和也

2) 法人運営委員会 及び 会議体

- ・合同委員会 委員長 青戸 雄司
- ・助成委員会 委員長 宮本 陽子
- ・助成検討委員会 委員長 青戸 雄司
- ・広報啓発委員会 委員長 渡邊 明
- ・経営推進会議 議長 青戸 雄司
- ・事業推進会議 議長 宮本 陽子

3) 経営目標について

1. 経営の運営体制と人財強化
 - ・会員さんも含めた法人運営会議の実践
 - ・人材発掘、人材把握、適材適所の活用
 - ・ボランティア活動から報酬を伴う活動への転換検討
2. 黒字決算の実現と次年度繰越金の増加
3. 収入基盤の拡大と強化確立
 - ・既存収入基盤強化と新規収入基盤の追加
 - ・ホームページ、SNS、動画、クラウドファンディング

4) 各事業の目標

◎互助活動助成事業

- ・3団体の支援を100,000円を上限として行う。
志免町民の生活支援を考える会・まちの保健室・事業者ネットワーク志免実行委員会
NPO法人いるか
- ・そのほか、通常助成の実施。

◎互助活動広報啓発事業

■新規事業

- ・活動報告会の開催
- ・AIブログ活用 及び支援団体のホームページを掲載したホームページの再構築
- ・他団体とのホームページのリンク
- ・月会費制の導入、支援したい活動の選択制の導入

■既存事業

- ・支援自販機 ・支援貯金箱 ・支え合い新聞社 3回／年、各800部発行
- ・ホームページ訪問数 1,000／月 ・2024年度会報誌 6月・200部発行

◎互助活動コーディネート事業

- ・助成団体、支援団体からの相談やコーディネート
- ・クラウドファンディングのコーディネート
- ・各小学校区に1ヶ所の第3の居場所を開設するサポート
- ・生活支援等のサービス提供チームの起ち上げに寄与するコーディネート

NPO法人

志免地域

支え合い互助基金

NPO法人 志免地域支え合い互助基金

〒811-2205

福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1
医療介護施設かめやま内

電話 : 092-692-1512

FAX: 092-937-6141

E-mail: shimekikin@gmail.com

Web サイトもご覧ください

<https://shimekikin.org>



ご寄付のお願い および 賛助会員募集のご案内

皆さまから寄せられるご寄付、賛助会費により
地域の互助活動を支援します！



NPO法人志免地域支え合い互助基金では、
活動を支援するためにご寄付くださる方、また
活動趣旨にご賛同頂ける賛助会員の方を募集しています。

ご寄付

※専用の振込用紙、および賛助会員申込書は
事務局よりお送りいたします。

法人・個人を問わず任意の額で結構でございます。

※寄付金の取扱いについて

- 個人（個人事業主）が寄付された場合
本寄付金は、寄付金控除の対象とはなりません。
- 会社・法人が寄付された場合
法人が他の会社・法人に寄付した場合と同様の取扱いとなります。
一般寄付金として当該会計年度の損金算入限度額の範囲内で
損金処理が可能です。

賛助会員

【入会金・年会費について】

	入会金	年会費
賛助会員（個人）	0円	3,000円
（団体）	0円	10,000円

【申込方法】

- ①「賛助会員申込書」にご記入の上、事務局までFAXまたは郵送・
メール、もしくはお電話ください。受取りに伺います。
- ②年会費をお振込み頂くか、お電話をください。受取りに伺います。

◆サポーター会員募集！！

以下の活動をお手伝いして下さる方を募集して
います。関心のある方は、ぜひご連絡ください！

- ・支え合い新聞社 活動
- ・SNS情報発信 活動
- ・第3の居場所 活動
(地域食堂・多機能型こども食堂..等)
- ・助成団体の活動支援

◆支援貯金箱設置 及び 設置者紹介 のお願い



左の写真のような
貯金箱を設置して
も良いと言われる
方を募集しています。
皆さん、
設置の程、よろしく
お願い致します。

ご寄付・会費の振込口座について

トクヒシメチイキササエアイゴジョキキ
口座名義： 特定非営利活動法人志免地域支え合い互助基金

西日本シティ銀行 博多支店【店番 217】（普通）No.3116590
福岡銀行 志免支店【店番 236】（普通）No.1770312
ゆうちょ銀行振替口座 01730-7-147585（代表者名等なし）

編集後記

2024年度は、2つの団体設立サポート及びその継続に向けたコーディネートを行ってきました。モデル事業『志免町民の生活支援を考える』を行うに至った【身寄りのいない1人暮らしの方】をどのようにして支えていくのか？という大テーマがその根底にあります。

家族構成人数が少なくなり、家族が個人を支えてきた見守りや支え合いを、地域やその個人の仲間等コンパッション・コミュニティがそれを担う役割へと時代が変わっていく中、この町でその議論が活発に行われ、「協働」という行動が生まれるよう一所懸命に仕える必要を感じた年度になりました。

(NPO法人志免地域支え合い互助基金 事務局)